



教室紹介

多久市民大学「ゆい工房」

ジャムを作ろう！



▲煮汁の加減でトロトロ感を調節し、人参ジャムを作るみなさん（3月13日）

素材の味を生かしたジャムを山の分校で語らいながら作りましょう

を昔懐かしい学校の雰囲気の中で学ぶことから開始。グラニュー糖を入れるタイミングや効果的なレモン汁の使い方など素材によって違う作り方のコツに加え、講師の豊富な知恵が聞けるのも楽しみの一つです。受講者は「家庭にある材料ですぐ作れるのが魅力」や「独学の知識が確かなものになって嬉しい」と話し、満足な出来栄えに会話も弾んでいました。

旬のおいしい果物や野菜をジャムにして楽しむ講座は、自らが多種類のベリー類やハーブなどを育て、ジャムの加工・販売もされる「こがベリー園」の古閑勝巳さんが講師の人気講座です。今回も定員いっぱい10人が4回シリーズで、ラズベリー、梨、ミカン、人参ジャムを作りました。南溪分校でのレッスンは、教室の黒板に書かれた素材の特長や手順

短歌

《麦の芽短歌会 五選》

親を看る私が看られごめんねと逝った娘の声老いて身を刺す  
うっとり笑むモナリザの絵をみつつ老いの溜息吹きかけており  
もう一度あの丘の上登りたきと願ひ湧きくる今日の散歩道  
柿盗人枝を裂きいて掘り返す真犯人は猪なりき  
まだ腕に抱きしぬくもり残りおり二十歳の門出迎ゆる孫よ  
川浪 信子  
福島那智子  
栗原 瑛子  
本村 則子  
本田 静香

俳句

《楮樹句会 五選》

一雨につづく一雨春隣り  
早梅に水琴窟の音さえて  
不二見恵美子  
独り居に重さなつかし患方巻  
野田キヌ子  
音たてて竹林触れ合う寒苗  
春田 泰子  
木の芽和あれば不満は申すまじ  
松尾 孤杖  
納富 芦風

川柳

《多久川柳会 選》

健康な家庭で育つ子の笑顔  
ウオーキング楽しい会話  
猪ノ口昭子  
突然に基地の火の粉が飛んでくる  
古井のぶ子  
落ちた葉は土にかえって根を育て  
高塚チカ子  
大木の葉枯れて秘書が散る  
松下 修  
西山 残月

No. 156  
人権教育  
と生きたる

「プラスの言葉」

4月、学校行事や、地域での総会などいろいろな場で人の話を聞く、あるいは話す機会が多くなりますが、そのような時にプラスの言葉で話せたらと思います。たとえば、雨が降っている時の会合の場で、「お足元の悪の中に・・・」というように言い方や、また、「用件を手短に話します」とか、移動をする際に「今日は足がないので・・・」という言い方をしていませんか？

このような言葉は、話す側に落ち度がある時などマイナス的な表現をする時に使う事が多いようです。

手が短い、足がないことは悪いことなのでしょいか。その言葉を使うことで、不快と感じる方もおられると考えてください。プラスの言葉で言い換えると、「雨の中を」「用件を簡潔に話します」「今日は交通手段がなかった」となります。他にも「おせっかい」を「世話好き」「ガンコもの」は「意思がきわめて強い」、などとプラスの言葉に言い換えると同じ話題でも心地よく聞こえてきます。

言葉を大切にすることは心を大切にすることに繋がっています。なぜなら、言葉は私たちの意識が生み出すものであるからです。

意識、つまり心を大切にすることは、私たち一人ひとりが持っている人権を大切にすることです。今の気持ちはどんな言葉で表せばいいか、プラスの言葉を意識しながら常に考える習慣を身につけていきたいと思います。

社会教育指導員 野中久美子